

平成25年12月13日

## 平成25年度「全国学力・学習状況調査」における桃陽小学校の 結果の分析と今後の取組について

大阪市立桃陽小学校長 服部 俊夫

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成25年4月24日(水)に6年生73名を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について、公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針にのっとり、公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

また、子どもの学力向上は、「早寝、早起き、朝ごはん」や「家庭での学習習慣の定着」など、学校と家庭、地域の連携・協力が不可欠です。今後とも、子どもたちの健全育成のため、ご理解ご協力のほどよろしくお願ひします。

### 1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上のような取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査内容

#### 【教科に関する調査】

- 主として「知識」に関する問題(国語A・算数A)
  - ・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
  - ・実生活において不可欠で、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

- 主として「活用」に関する問題(国語B・算数B)

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
  - ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

#### 【児童生徒質問紙調査】

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

### 3 調査結果(次ページ以下をご覧ください)

# 平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立桃陽小学校

児童数

73

## 平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	71	55.3	84.6	69.7
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

## 平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	9	11	2.7	4.4
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

## 結果の概要

国語・算数のそれぞれの教科において、A問題（主として知識に関する区分）とB問題（主として活用に関する区分）のいずれも、本校の平均正答率は大阪市の平均正答率を9～13ポイント上回っている。また全国の平均正答率と比べても6～11ポイント上回る結果となった。特に、国語Aと算数Bでの平均正答率が高い。

一方、問題に対して答えをまったく書けない「無解答率」の平均は、算数Aにおいて大阪市および全国平均を共に上回っており、学習意欲を持続させる工夫が必要である。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

国語・算数ともに、基礎基本の定着と活用をめざして学習活動をすすめてきた。その結果、今年度の全国学力・学習状況調査において、いずれの教科も平均正答率は全国平均を上回り、学習の理解がすすんでいることが明らかになった。また、家庭での学習習慣も定着している様子が見られ、今後も、学校と家庭が連携することでさらに学力向上が期待できる。

ただ、全体としての平均正答率は高くても、正答率分布を分析すると、学習の理解が十分でない子どもたちも少なくない実態があり、学力の二極分化傾向が見られる。今後習熟度別少人数指導など、一人ひとりに応じた指導のあり方をさらに工夫していく必要がある。

また、「朝食を毎日食べている」割合が大阪市や全国の平均と比べて十分とはいえない「早寝、早起き、朝ごはん」の重要性をあらためて家庭、地域に発信していきたい。

学力は、単に学校の学習だけで向上するのではない。家庭・地域を含め、子どもたち一人ひとりが大切にされるなかで、よりよく育まれ、身についていくものである。

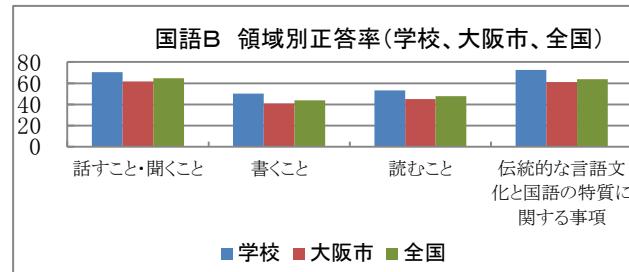
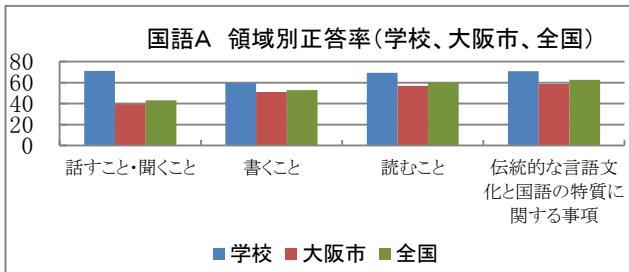
## 【国語】

### 結果の概要

A・Bともに、いずれの領域においても大阪市および全国の平均正答率を上回っている。特に、国語Aの「話すこと・聞くこと」について正答率が高い。自分の気持ちを正しく伝えたり、相手の意図を正確に聞き取ったりする力が身についていると考えられる。

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	71.2	39.5	43.2
	書くこと	4	59.6	51.1	53.0
	読むこと	3	69.4	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	71.0	58.7	62.6

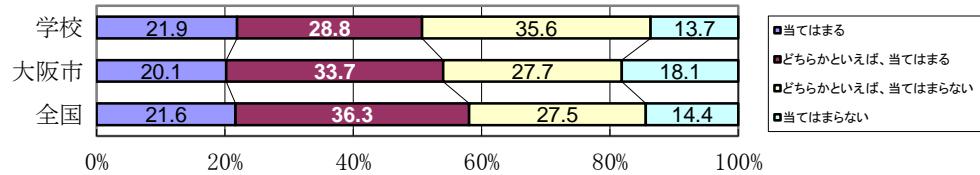
B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.3	61.7	64.8
	書くこと	4	50.3	41.0	43.8
	読むこと	4	53.1	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	72.6	61.0	63.8



### 国語に関する「児童質問紙」

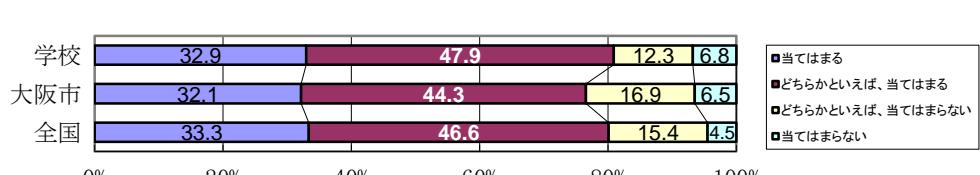
I 53 II 52 III 62

国語の勉強は好きですか



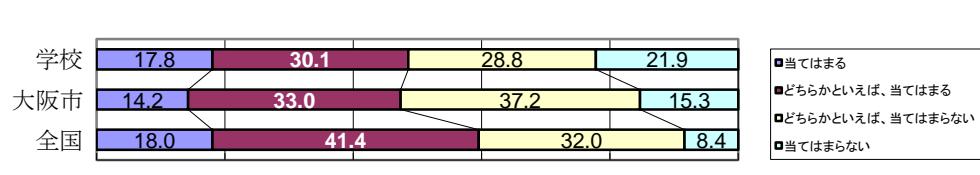
I 55 II 54 III 64

国語の授業の内容はよく分かりますか



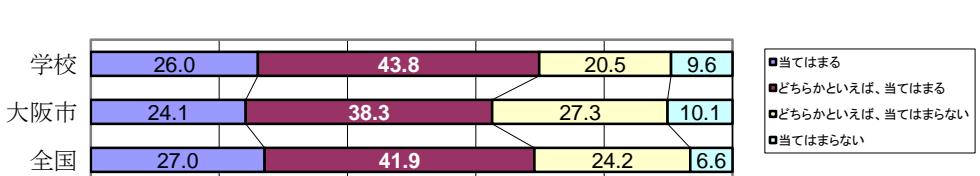
I 58 II 57 III 67

国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 69

国語の授業で自分の考えを書くとき、考え方の理由が分かるように気を付けて書いていますか



### 成果と課題

話し方や聞き方のルールや話型を教室に掲示したり、学習活動の中で話し合い活動を積極的に導入したりした結果、相手にわかりやすい話し方や話を聞く態度が育ちつつある。「国語の勉強が好きですか」に対して、肯定的な回答をさらに高める必要がある。

### 今後の取組

言語活動の充実や学校図書館のさらなる活用、読み聞かせなどを通して、読書に親しみを持たせ、本好きな子どもを増やしていく。また、授業の中で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする活動をさらに増やしていく。

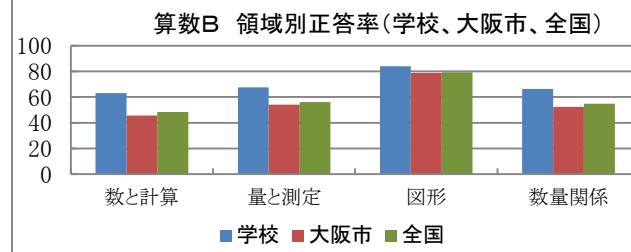
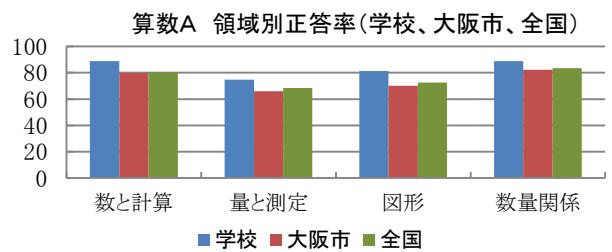
## 【算数】

### 結果の概要

A・Bともに、いずれの領域においても大阪市および全国の平均正答率を上回っている。特に、「数と計算」について正答率が高く、B問題では全国平均を15ポイント、大阪市平均を18ポイント上回っている。

A 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	8	88.7	79.8	80.2
	量と測定	4	74.7	66.0	68.3
	図形	3	81.3	70.2	72.5
	数量関係	4	88.7	82.2	83.4

B 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	3	63.0	45.7	48.3
	量と測定	7	67.7	54.1	56.0
	図形	3	84.0	78.8	79.3
	数量関係	7	66.3	52.4	54.9

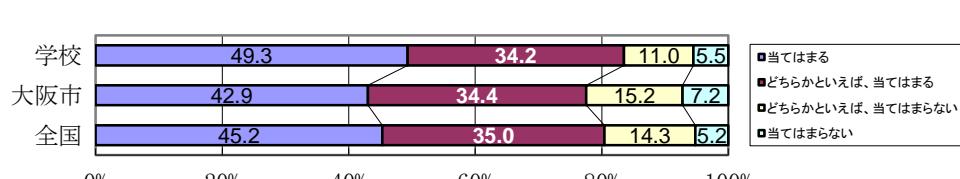


### 算数に関する「児童質問紙」

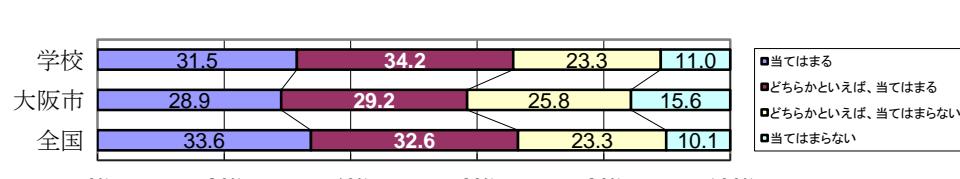
I 73 II 62 III 72
算数の勉強は好きですか



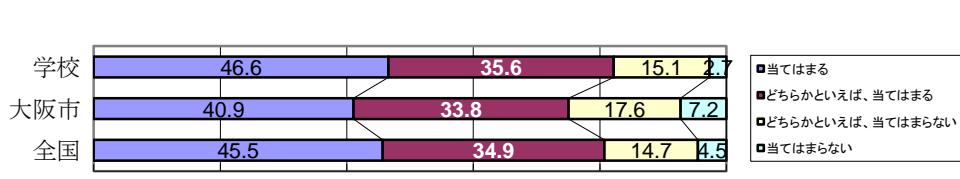
I 75 II 64 III 74
算数の授業の内容はよく分かりますか



I 78 II 67 III 77
算数の授業で学習したことを探段の生活の中で活用できないかを考えますか



I 81 II 70 III 80
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



### 成果と課題

習熟度別少人数指導などの成果が表れてきている。「算数の勉強が好きですか」に対して、肯定的な回答が8割を超えており、学習の理解もすすんでいる。一方、算数A問題での無解率が大阪市および全国平均を上回っているため、学習意欲の持続が課題である。

### 今後の取組

指導法を工夫して基礎基本の定着を図るとともに、習熟度別少人数指導やT・T指導など個別に応じた指導をさらにすすめて、わかる授業を展開していく。家庭とも連携して、家庭での学習習慣を確実に定着させ、学ぶ意欲を向上させていく。

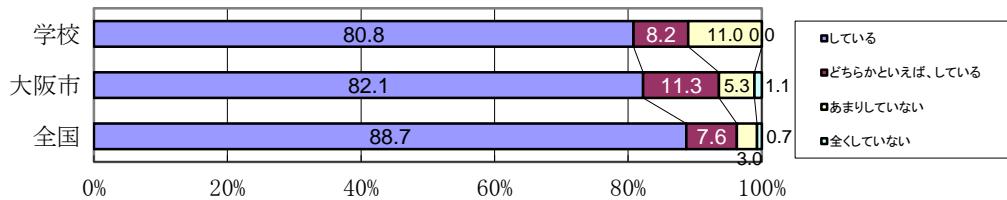
## 基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

### 結果の概要

「朝食を毎日食べている」割合が、大阪市や全国の平均と比べて十分といえない。「あまり食べていない」は、大阪市平均の約2倍、全国平均の約3倍になっている。「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的な割合は大阪市平均を上回っているが、全国平均には及ばない。「学校のきまりを守っていますか」の割合は大阪市や全国の平均を下回る。

質問番号	質問事項
------	------

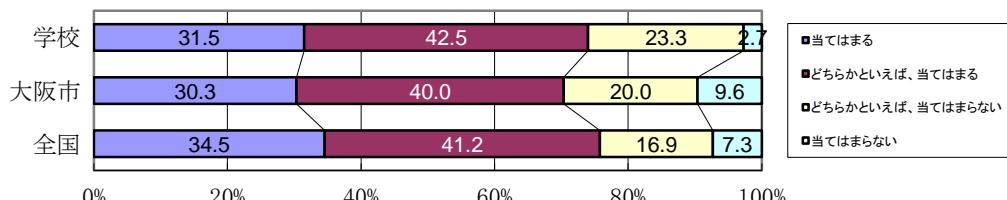
I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 44
学校のきまりを守っていますか		



### 成果と課題

「自分にはよいところがある」との自尊感情を持つ割合は、大阪市平均と比べると、約4ポイント高くなっている。「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の割合も同様で、十分ではないが一定の成果は表れている。しかし、学校のきまりへの規範意識は、今後高める必要がある。

### 今後の取組

学校生活の中で、子どもたちのがんばりを認めてほめたり、自己充実感をもてるような活動を工夫したりしながら、自尊感情の育成に努める。また、基本的生活習慣の定着や規範意識の向上について、家庭に対する啓発をすすめ、地域とも連携して協力をもとめていく。

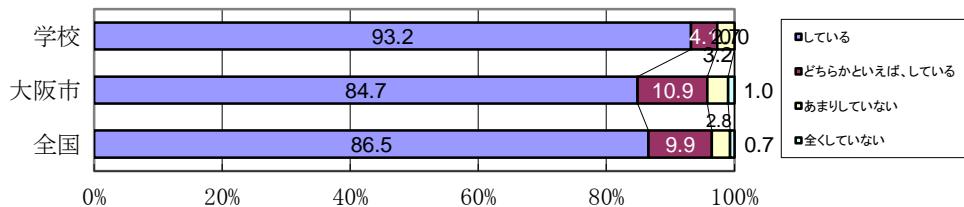
# 家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

## 結果の概要

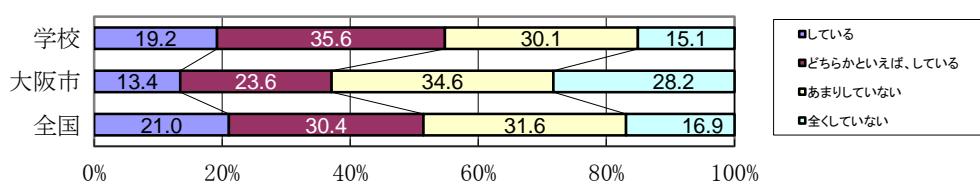
「家で学校の宿題をしている」割合が、大阪市や全国の平均を上回っている。また「家で学校の授業の復習をしている」割合も、大阪市平均を大きく上回り全国平均をも上回っている。「読書は好き」の割合は、大阪市平均とほぼ同じで、全国平均には及ばない。「考えを説明したり文章に書いたりすること」に困難を感じていない子どもは多い。授業での話し合い活動も、概ね活発である。

質問番号	質問事項
------	------

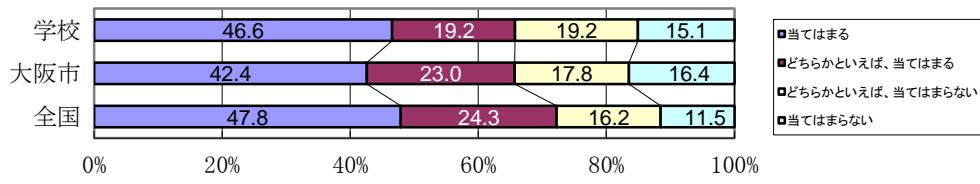
I 30 II 25 III 35
家で、学校の宿題をしていますか



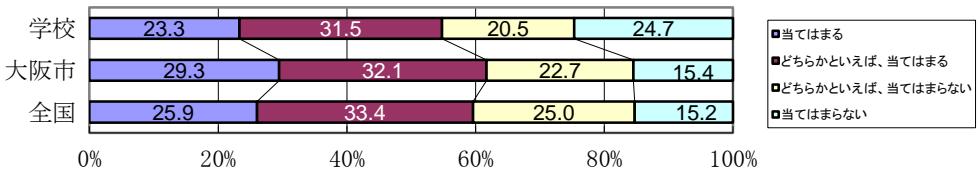
I 32 II 27 III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか



I 56 II 55 III 65
読書は好きですか



I 52 II 51 III 60
学校の授業などで、自分の考え方を他の人に説明したり、文章に書いたりすることには難しいと思いますか



I 50 II 48 III 56
普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



## 成果と課題

わかりやすい授業の工夫や家庭との連携に努めてきた結果、宿題や授業の復習などの家庭での学習習慣は全体的に定着してきている。一方、読書が好きという子どもの割合が十分とは言えず、今後の教育活動の中で、本を読むことへの意欲と習慣をさらに向上させる必要がある。

## 今後の取組

家庭学習の習慣が十分ではない子どもも少なくないため、より一層の定着のため家庭との連携をすすめていく。また、読書好きの子どもを増やすため、言語活動の充実とともに、学校図書館のさらなる利用や読み聞かせ活動など本に親しむ機会を工夫していく。